

高津発 日本改革!

ほりぞえ健^{けん}ニュース

2005年3月号 No. 22

民主党 ほりぞえ健事務所

〒213-0033

川崎市高津区下作延266 エスビル4階
(溝の口駅徒歩2分 高津区役所隣り)

電話 044-855-1479 FAX 044-855-1489

http://www.horizoe.com

E-mail: horiken@horizoe.com

新総合計画における高津区行政

川崎市議会議員 ほりぞえ健^{けん}

(事務局)

先週閉会した3月定例会では、新総合計画に関しても様々な議論が行われましたね。

(堀添)

はい。今回の新総合計画は今後10年間を視野においた計画ですが、とりわけ17年度からの3カ年については、実行計画として具体的に記載されることとなりますので、17年度予算の審議と並行して議論が行われました。

(事務局)

新総合計画により高津区の行政はどのようなものになるのでしょうか。

(堀添)

高津区の視点で考えた場合、新総合計画とは2つの点で関わってきます。まず第一は、各施策課題の具体化という点です。新総合計画では、まちづくりの基本目標を実現するために、7つの政策体系に整理がされています。この政策体系は、さらに具体的な事務事業に展開されているわけですが、この段階では当然、具体的な

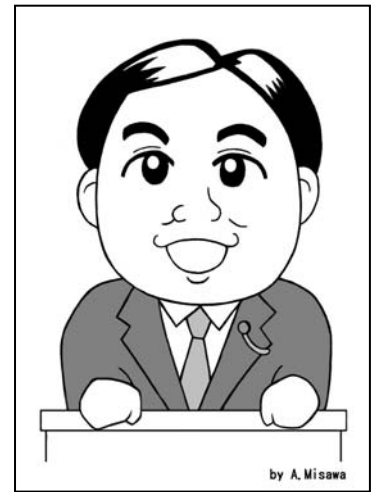
まちづくりの課題が明確にされなければなりませんので、施策の大半は各行政区との関連ができてきます。

第二に、自治のあり方として、市役所と区役所、区行政との関係が変わるといえる点です。このことは、主に7番目の政策体系「参加と協働による市民自治のまちづくり」で展開されています。今までのように、窓口サービスの提供を主とする区役所から、区における問題解決の場として機能する区役所へと、権限と役割、責任が大きく区へ分権されていきます。いわば行政システム全体の改革という点で関わってくると思います。区長の権限の強化や区民会議の試行、そして全体としての区行政改革が、平成17年度から大きく進んでいくのではないのでしょうか。高津区は川崎市の中でも典型的な区ですので、ここでの取り組みは全市の中でも重要な役割を担うと思います。

(事務局)

ありがとうございました。

(2005年3月22日)



- 1963(昭和38)年2月6日、高津区に生まれ、高津小学校出身。桐朋中学、高校を経て東京工業大学を卒業。
- 東京都三鷹市で9年間、地域情報化やプライバシー保護等に従事。
- セブーンイレブン本部での情報システム構築をはじめ、ITを活用したシステムづくりに従事。
- 2003年4月、川崎市議会議員に初当選。
- 民主党神奈川県第18区総支部副幹事長
- 経済産業省 システム監査技術者
- 妻と長女(中学2年)の3人家族

新総合計画

まちづくりの基本目標:「誰もがいきいきと心豊かに暮らせる持続可能な市民都市かわさき」
まちづくりの基本方向:

協働と協調をもとに、いきいきとすこやかに暮らせるまちをつくる

川崎の特徴や長所を活かし、持続型社会の実現に貢献する

自治と分権を進め、愛着と誇りを共有できるまちをつくる

政策体系

安全で快適に暮らすまちづくり

幸せな暮らしを共に支えるまちづくり

人を育て心を育むまちづくり

環境を守り自然と調和したまちづくり

活力にあふれ躍動するまちづくり

個性と魅力が輝くまちづくり

参加と協働による市民自治のまちづくり

施策展開

高津区行政

仕組み改革

新総合計画素案における高津区の主な施策

基本政策Ⅰ 安全で快適に暮らすまちづくり

事業名	現状	目標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
地域の安全対策事業 安全な地域社会の確立に向け、地域住民と一体となって、防犯対策と交通安全対策事業を実施。	防犯対策、交通安全対策の推進	→			
消防署所の改築事業(高津消防署) 耐震補強の必要な高津署及び新作出張所を計画的に整備し、防災拠点の確保と初動体制の強化を図る。		高津消防署竣工		新作出張所の耐震補強	
消防力の整備事業(高津消防署) 効率的で効果的な防衛活動及び災害活動時の安全管理のため、新たに指揮情報隊を高津消防署に配備する。また、本署のポンプ車を5人乗車体制とする。					高津消防署に指揮情報隊を配備、5人乗車体制を実施
雨水貯留管関連事業 雨水量増大や集中豪雨による「都市型水害」を防ぐため貯留管を早期に機能させるよう江川雨水貯留管バイパス管整備。	整備済 1,890m		着手延長 911m		着手延長 1,985m
溝口駅周辺のバリアフリー化 交通バリアフリー法に基づき、溝口駅周辺地区のバリアフリー対策を実施。	基本構想策定	整備着手	→		2008年度 整備完了
溝口駅周辺のあんしん歩行エリア整備 2007年度までに、溝口駅周辺地区エリア内の死傷事故件数を2～3割削減。	整備計画策定		整備着手	整備完了	
耐震対策等橋りょう整備事業 緊急活動道路にかかる橋や、落橋により二次災害の恐れのある跨線橋・跨道橋の耐震対策を行う。	整備済 累計5橋		整備完了 累計9橋		
溝口駅周辺地区放置自転車防止啓発 地元関係団体と連携しマナー向上の啓発活動等を実施。	啓発活動等 各種対策の実施	→			
放置自転車対策事業 駐輪場の新設・増設・改修により収容台数を増やす。放置自転車撤去とあわせ放置禁止地区の指定か所数を拡大する。	収容台数 6,993台 放置禁止区域 4駅	駐輪場の整備			放置禁止区域 指定:1駅
自転車利用環境整備 利用率が70%に満たない駐輪場の利用率向上等を図るため、駐輪場料金格差の設定などを行う。	70%に満たない駐輪場 3箇所	利用率向上に向けた取組の推進	→		

基本政策Ⅱ 幸せな暮らしを共に支えるまちづくり

事業名	現状	目標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
西高津中学校区老人いきいの家運営 高齢者を対象とした健康づくりや介護予防などの機能をもった(仮称)西高津老人いきいの家を整備。				開設	

基本政策Ⅲ 人を育て心を育むまちづくり

事業名	現状	目標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
地域子育て支援体制の確立 梶ヶ谷地区の子育て広場を子育て支援センターと統合し相談事業の充実や親子で遊べる場づくりを推進。		梶ヶ谷地区			
認可保育園の整備 千年地区(90人増)及び久地地区(60人増)に認可保育園を整備し、保育園入所待機児童の解消を図る。	千年: 基本・実施設計 久地: 民間整備	工事着手	工事完了	開所 開所	
学校教育施設の改築事業 橋中学校の改築。	実施設計	工事着手	校舎完成		

基本政策Ⅲ 人を育て心を育むまちづくり

事業名	現状	目標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
学校適正配置の推進 子母口小学校の過大規模対策の実施	検討委員会設置	適正規模化の方針決定	→	適正規模化への推進(2ヵ年)	新たな適正規模対象校の取組
学校施設の有効活用 学校施設を地域の生涯学習及び市民活動の拠点としていくため、市民主体による学校施設の有効活用を促進。	学校施設開放運営委員会による施設開放	市民主体運営モデル1校	市民主体運営モデル2校	本格実施2校	順次区内全校へ拡大

基本政策Ⅳ 環境を守り自然と調和したまちづくり

事業名	現状	目標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
矢上川河川緑地周辺の景観づくり 市民との協働により花壇等の緑化整備を図り、河川空間と一体となった緑の景観づくりを推進。		地域との協議・調整 実施設計、工事 施工・完了			

基本政策Ⅴ 活力にあふれ躍動するまちづくり

事業名	現状	目標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
溝口駅周辺地区の総合的整備 地域一帯の整備に係る基本方針に基づき、課題の解決や個別事業の調整など総合的な取組を推進。	溝口駅周辺 仮称 久本薬医門公園	基本方針策定・推進 公園整備計画策定	整備・完成		→
溝口駅南口広場整備 駅前広場やペデストリアンデッキを整備。	用地取得		デッキ整備完成	整備着手	2008年度完成
梶ヶ谷駅周辺交通環境整備 土地利用の転換等の機会を捉え、駅周辺の交通課題の改善を図り、安全で利便性の高い駅周辺のまちづくりを推進。	課題の検討	課題の調整 整備手法の検討	→	整備	

基本政策Ⅵ 個性と魅力が輝くまちづくり

事業名	現状	目標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
高津区「音楽のまち」推進事業 区内の豊富な音楽資源を活かし、区民との協働による音楽関連事業を推進。	音楽関連事業の実施	→			
地域活性化推進事業 文化・スポーツ活動などの各種市民活動の支援や地域住民が主体となったイベントを実施。	各種市民活動の支援やイベントの実施	→			
旧平瀬川跡地整備計画策定 溝口駅周辺に残された貴重な公共空間である旧平瀬川跡地の有効活用を図るため、市民参画による基本計画を策定。		市民参画による基本計画策定	取組推進		→

基本政策Ⅶ 参加と協働による市民自治のまちづくり

事業名	現状	目標			
		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度以降
高津まちづくりビジョン推進事業 区民と行政の協働による街づくりを推進する。	提案メニューの実施	→			
ISO9000シリーズ認証事業 窓口サービスの向上と効率化を図るため認証を維持する。	認証取得	ISO認証維持			→
区民会議運営事業 区における課題を的確に把握し、区民の参加と協働によって、地域で解決するための調査・審議を行う区民会議を設置す		要綱に基づく試行実施	条例による設置	運営	→

第19回 「川崎市政に参加する会」のご案内

私たちの住む川崎市を「安心して暮らせるまち」にしていくためには、私たちの手でもっともっと変えていかなければならないと思います。

一人一人の主権者の皆様とともに、新しい川崎市のあり方について、勉強し、議論し、実行していく場として、「川崎市政に参加する会」を開いています。

毎月、その時々にあったテーマを設定し、開催しておりますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第19回 4月2日 午後1時半～ てくのかわさき
「川崎市の外国人市民施策～多文化共生」



日時：2005年4月2日（土）
午後1時半から4時まで。

場所：てくのかわさき

溝の口駅徒歩5分
溝口1-6-10 044-812-1090



このニュースはご自宅にも無料で配送しております。毎月確実にご覧になりたい方は、ほりぞえ健事務所までご連絡ください。（電話：855-1479）

連載コラム 川崎と高津の地名（No.6） 参考：日本地名研究所編「川崎の町名」

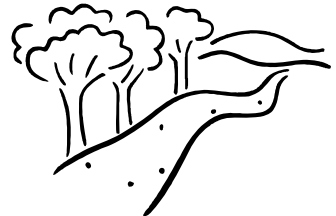
「諏訪」の由来

昭和3年、高津村が町制に移行した時に、それまでの「諏訪河原」から「諏訪」に地名が変わりました。

それまでの諏訪河原の地名の由来は、長野県の諏訪と関連が深いと言われていました。「風土記稿」によると、小田原北条氏の家人、信濃出身の諏訪左近頼久が小机領寺尾村小黒に逃れ住み、のちにここへ移住し、屋号を村名にしたという説と、「小黒家文書」によると頼久が天正12年（1584年）に諏訪明神（現在の諏訪神社）を勧請したから、という二説があるようです。

近世になると一時的に村の半分以上が旗本領になりましたが、あとは直轄領と増上寺御霊屋料だったようです。

17世紀末には溝の口宿の助郷（宿駅の補助として課役を担う）に当てられましたが、18世紀前半には品川宿の助郷役もあわせて命じられ、村民は人夫役を減らすために新たに堀をつくって村の境界を変えようとしたほど、村にとって負担が大きいのでした。



政治資金ご寄付のお願い

地元から日本改革を実現するために、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

「ほりぞえ健後援会」宛

郵便振替：高津郵便局 口座00270-1-24169
銀行振替：川崎信用金庫 高津支店 普通0796294

先日NHKの歴史番組で、「ちよんまげ」の断髪をめぐり、明治初期の騒動が取り上げられていた。／開国や不平等条約締結を迫られるなか、日本が列強諸国に伍していくには国家の近代化が急務であり、そのためには、外側からも国民の意識を変えていく必要があった。しかし、断髪令など上からの押し付けには民衆の反発も強く、断髪をきっかけの一つとした離婚や、一揆まで起こり、政府は頭を悩ませていたという。一方、政府内で断髪に消極的であった若倉員も、アメリカ視察を機に、外見も新しく改めなければ対等の交渉者として欧米に相手が動きやすく、仕事をすることは合理的であるし、服を変えれば髪型も対応せざるを得ない。「ちよんまげ」廃止は、「近代化」の象徴的な意味を持つとともに、「近代化」の象徴的な意味を持つとともに、日本の工業化を図るうえで必然的な流れだったのだ。／しかし「開国」国際化の波は、一歩で、髪型だけでなく、様々な分野において、無批判に欧米流の価値観を「進んだもの」と捉えてしまったことは、日本にとっても不幸なことだったように思える。それは「世界」欧米という感覚やアジア蔑視につながり、中国朝鮮侵略などを意識面で支えた。また、「鬼畜米英」という言葉にも表されるように、深い理解を伴わない「憧憬」は、簡単に「憎悪」にも転化する。／江戸時代末期の「開国」から百五十年近くたった今、「国際化」という言葉はあふれているが、私たちの意識は変わったのだろうか。他国、とりわけアジアの隣国諸国について、歴史や文化、現在の問題を十分理解し、尊重しようとしていないか、まだまだ心もとない気がする。川崎市には二万六千人以上の外国籍市民が生活している。全国に先駆け、消防職を除く全職種で外国籍職員を登用するなど、先進的な自治体として知られ、市民間の交流の取り組みも様々な形で行われている。竹島問題など、個々の絆を結んでもいけないと思う。（事務局ゆ）